様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０３２７５

研究課題名（和文）移民と先住民のルーツを生きる－北西部オーストラリアの日本人移民と先住民

研究課題名（英文）Being Indigenous and being migrant: Indigenous Australians and Japanese migrants in northwestern Australia

研究代表者
山内　由理子（Yamanouchi, Yuriko）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：５０６２６３４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではオーストラリア北西部の町ブルームでの日本人移民とオーストラリア先住民のミックスの人々のアイデンティティのダイナミズムを追求した。日本側の歴史の多様性や日本人のステレオタイプや日本食に関する語りの分析により、彼らのアイデンティティが日本人移民と先住民の相互交流により醸成され、更にその語りにまつわる親密性の操作により彼らがグローバリゼーションの中で多層的なアイデンティティ・ポジショニングを行っていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は日常の微細な語りにおける日本人と先住民の交渉を視野に入れ、両者のミックスの人々のアイデンティティを探った。それにより、従来「日系か否か」という視点に基づいてきた日本人移民研究が非日系人との関係を組み込む道を提示した。また、先住民側との関係への着目により、従来日本人と受け入れ国のマジョリティとの関係中心であった日本人移民研究に新たな局面を開いた。更に、従来アメリカ両大陸に偏ってきた日本人移民研究に対し戦前から続くオーストラリアの事例を提示した。

研究成果の概要（英文）：This research explored the identity dynamics of mixed descendants of Japanese migrants and Indigenous Australians in Broome, a town in north-west Australia. Through focusing on the stereotypes of Japanese people, it argues that their identities have been shaped through interactions between Japanese immigrants and their Indigenous family members, neighbours and community. It also deals with the narratives on their Japanese male ancestors food and discusses that through the manipulation of their food memories, they engage in multilayered identity positioning in the context of globalisation.

研究分野：文化人類学

キーワード：移民　先住民　日系人　ミックス　アイデンティティ　食　オーストラリア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

1880 年代より 1960 年代までオーストラリアの北西部の町ブルームには日本人移民が真珠貝産業などに従事するために流入し、現地のオーストラリア先住民と様々な形で交流した。今日においても現地には日本人とオーストラリア先住民の血を引く子孫が存在する。本研究においてはこの日本人移民とオーストラリア先住民の双方のルーツを引く人々が、ローカルな日本人・先住民コミュニティのポリティクスやトランスナショナルなルーツ探しなどのさまざまな実践を通じてそのアイデンティティを交渉してゆくダイナミズムを探るものである。

戦前、アメリカ両大陸を合わせたよりも多数の日本人がアジア太平洋地域に移住し、現地の人々と様々な形で交わり、時には混血の子孫を残した。だが、日本国内国外双方で彼らに関する研究はまだ少数である。従来の日本人移民研究はアメリカ両大陸に偏り、移民の世代間の格差や社会組織、アイデンティティ等が主な研究対象となっていたが、移住のプロセスにおいてしばしば不可避なものとして生ずる移住先の他のエスニックグループとの婚姻を含めた様々な関係形成、および彼らとの混血の子孫に関しては、北米における限定的な試みはあるものの（e.g. Root 1992）、その他の地域に関しては、日本とそれ以外のルーツを引くことの意味に関する突き詰めた研究はまだ少数である。

日本におけるオーストラリアへの移民に関しては、日本人移民の社会状況や移民自身のアイデンティティに焦点を当てる調査がなされてきたが、、移住先の人々との関係や混血の人々の具体的な状況には踏み込んだ調査がなされてこなかった。オーストラリアにおいては戦前の日本人コミュニティ（Sissons 1979, Nagata 1996）やオーストラリア北部の真珠貝産業研究の一部として日本人移民を取り扱った研究（Bain 1982, Ganter 2006）が存在するが、これらの研究においては植民地支配下の真珠貝産業に巻き込まれた日本人移民とオーストラリア先住民の非差別的な状況の共有には示唆がなされたものの(e.g. Black and Sone 2009)、その中で生きる人々の具体的なダイナミズムはエピソード的に示唆される状況にとどまっている。

一方、オーストラリア先住民は日本国内においても、オーストラリアにおいても長年研究の対象であり、彼等の社会・親族組織や美術、ジェンダー関係等が研究の対象となってきた（e.g.Berndt and Berndt 1954, 窪田 2005）。しかしこれらの研究においては、オーストラリア北部におけるエスニック・グループ混交の歴史の帰結は、近年の見直しはあるものの、まだその枠組みには組み入れられないでいた（Hokari 2003, Stephenson 2007）。

申請者はオーストラリア先住民と日本人との集中的交流のあった地域としてオーストラリア北部（殊にブルーム）に目を向け、ことに 2012-2014 年に両者の歴史的関係に関する調査を行った。そこにおいては、日本人とオーストラリア先住民の子孫が現在も存在し、日本人と先住民の交流の歴史が彼等のアイデンティティに大きな影響を及ぼしている。本研究では、その知見を基に、その歴史を背景とする日本と先住民のミックスの人々が、自らの双方のルーツにどのようにコミットし、どのようにアイデンティティを交渉してきたかをブルームと日本という複数の場におけるフィールドワーク調査を中心に追及することを考えたものである。

２．研究の目的

（１）ブルームにおいて、日本人移民、その子孫らを対象に彼等のライフヒストリー、アイデンティティ、ローカルなポリティクスの関係に関し聞き取り調査を行い、日本人コミュニティとの活動や日本人側の家族との関係、先住民としての先住権原や先住民プロジェクトの関わりなど双方のルーツにかかわるファクターとどのように関係を持ってきたのか、それが自分の中の「日本人のルーツを引くこと」の認識にどのように影響し、また、それが同時に「オーストラリア先住民であること」とどの様に関係するのか、明らかにする。

それを通じて、「日本人」と「オーストラリア先住民」双方のルーツを引く人々のアイデンティティの交渉過程を探り、日本人移民研究において日系以外の人々とのダイナミックな関係を枠組みに組み入れる道を提示する。同時に複数のルーツを引く人々の間における「日本人のルーツを引くこと」の意味を問う。

（２）ブルームの日本人の子孫の日本への訪問とルーツ探しにおいて、その中で彼らのアイデンティティがどのように変化し、それをどのようにとらえてきたのか、オーストラリアへの「帰国」後、それが再びどう変化したのか、インタビュー調査を通じて探る。

３．研究の方法

（１）インタビューと参与観察を中心とした北西部オーストラリアの町ブルームにおけるフィールド調査：ブルームにおける日本人移民とその子孫に対してのインタビュー内容はライフ・ヒストリー、親族関係、エスニック間関係の経験、日本人及び先住民コミュニティ活動へのコミット、アイデンティティ、日本側の親族訪問またはルーツ探しの経験、などである。また、オーストラリア先住民、他のエスニック・グループにも日本人移民との関係の歴史などについてインタビューを行った。

（２）オーストラリアにおける歴史的背景の調査
西オーストラリア州の州都パースにおいて州立公文書館、州立図書館、国立公文書館西オーストラリア館、連邦首都キャンベラの国立図書館や国立公文書館本館を訪れ、日本人移民の第二次世界大戦時強制収容に関する書類や出生証明書の確認などを通じてブルームの日本人移民の親族やルーツ探しにおける予備調査を行う。

（３）日本におけるフィールド調査
日本人移民子孫の日本訪問及びルーツ探しに同行してのインタビュー調査。日本の親族との対面の前後でアイデンティティや日本観などに関してのインタビューを行う。

（４）データの分析
上記（１）－（３）で収集したデータを整理、分析し、論文などの執筆を行う。

４．研究成果
（１）日常の微細な語りに着目したミックスの人々のアイデンティティ醸成を明らかにした。日本人のルーツを持つ先住民とのミックスの人々へのインタビュー及びフィールド調査より、日本人移民１世の作った日本食に関する語りの多いことに着目した。食と移民のアイデンティティとの関係の密接さはかねてより研究されてきたが、本研究では日本人の父親や祖父の作った食に関する語りが、ノスタルジアや日系としてのアイデンティティの表出だけではなく、食とそれにまつわる親密性の記憶の操作や、その食と先住民側との関連性を通じて、彼らが多様で時には不安定な日本人のルーツとの関係や多文化主義やグローバリゼーションの潮流の中で自らのポジショニングを行っていることを明らかにした。また、先住民側と日本人移民の人々の子孫のライフヒストリーの分析より、日本人に関するステレオタイプや日本人との交流の記憶が、ミックスの人々のアイデンティティ形成に大きな影響を与えてきたことも明らかにできた。
　上記のような微細な語りに着目し、日本人と先住民の間での交渉を視野に入れることにより、本研究はこれまで従来「日系か否か」という視点で行われてきた日本人移民研究が日系以外の人々とのダイナミックな関係をその枠組みに入れる道を提示したと言える。
　また、日本食への反応や日本人へのステレオタイプと言った先住民側の視点に着目したことで、日本人移民とオーストラリア先住民という移民先でのマイノリティ同士の関係を明らかにしたことで、本研究は従来の日本人と受け入れ国のマジョリティとの関係中心にとらえられてきた日本人移民研究に新たな局面を開いたと言える。
　今後の展望としては、その他の生活の局面における彼らのアイデンティティ醸成のプロセスを探り、先住民運動の隆盛やさらなるグローバル化の進行の中でどのような展開を見せるかを探求してゆくことで、世界的に日本人であること、日系人であることの多様な展開を探ることができると考えられる。

（２）日本人移民の戦前と戦後のルーツの違いの子孫のアイデンティティに影響する様を描いた。ことに、戦前よりの日本人移民をルーツに持つ人々を焦点とし、語りとカテゴリーの問題をエスニシティ、アイデンティティ、および社会的歴史的状況と合わせて分析した。オーストラリアに戦前に移住した日本人をルーツに持つ日系人は戦時中の日系人強制収容や戦後の反日感情、更に先住民のルーツを持つゆえの先住民系施設への収容など二重のマイノリティとしての負担にさらされた。さらに、戦後の日本人移民をルーツに持つ人々が多い現在のブルームのアジア人・先住民のミックスの人々の間では、その一員とは認められながらも距離ができるという状況にあった。このイディオシンクラシーを描くことで、「日本人のルーツを引くこと」の多様性を議論の俎上に載せることができた。さらに、オーストラリアにおける戦前からの日本人移民の研究例を提示することにより、従来アメリカ両大陸に偏ってきた日本人移民研究を見直し、アジア太平洋地域における日本人移民に関する再認識を促す可能性を本研究は持っている。

以上の成果は数々の学会発表や論文において発表されている。

＜引用文献＞
①窪田幸子(2005)『アボリジニ社会のジェンダー人類学-先住民・女性・社会変化』世界思想社
②Bain, M.A. (1982). *Full Fathom Five*. Perth: Artlook Books.
③Berndt, R.M. And Berndt C.H. (1954) *Arnhem Land: Its History and Its People*, Melbourne: Chesire;
④Black and Sone (eds) (2009) *An Enduring Friendship: Western Australia and Japan: Past, Present and Future*, Crawly: University of Western Australia Press;
⑤Ganter,R.(2006) *Mixed Relations: Asian-Aboriginal Contact in North Australia*, Crawley: University of Western Australia Press.
⑥Nagata,Y. (1996). *Unwanted Aliens: Japanese Internment in Australia*. St. Lucia: University of Queensland Press.
⑦Sissons, D.(1979). The Japanese in the Australian Pearling Industry. *Queensland*

Heritage, vol.3 (10)
⑧Stephenson, P. (2007). *The Outsiders Within: Telling Australia's Indigenous-Asian Story,* Sydney: University of New South Wales Press.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 山内由理子	４．巻 21
２．論文標題 周縁性、語りとカテゴリー、そして搾取しない「学知」をめぐって	５．発行年 2019年
３．雑誌名 クアドランテ	６．最初と最後の頁 41‐49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山内由理子	４．巻 21
２．論文標題 イントロダクション：ポスト・ファクト時代におけるグローバル・リコンシリエーションの行方	５．発行年 2019年
３．雑誌名 クアドランテ	６．最初と最後の頁 103‐106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Yuriko Yamanouchi	４．巻 33
２．論文標題 “My Grandparents Told Me a Lot about My Japanese Dad”: Ethnic Identification of Japanese Descendants in Broome, Western Australia	５．発行年 2018年
３．雑誌名 People and Culture in Oceania	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yuriko Yamanouchi	４．巻 24-25
２．論文標題 Japanese ancestors, non-Japanese family, and community: Ethnic Identification of Japanese descendants in Broome, Western Australia	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Coolabah	６．最初と最後の頁 142-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yuriko Yamanouchi	4．巻 印刷中
2．論文標題 Memories, relationships and identity: food-related narratives and memory among Japanese descendants in Broome, Western Australia	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Food, Culture and Society	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15528014.2023.2211485	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 Yuriko Yamanouchi
2．発表標題 Food, exchange relationships, and mixed heritages: Food-related Narratives and memory among Japanese-Indigenous Australians in Broome, Western Australia.
3．学会等名 Australian Anthropological Society Annual Conference（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Yuriko Yamanouchi
2．発表標題 Call and Response of Indigenous studies in Australia and Japan, discussant's comment
3．学会等名 オーストラリア学会
4．発表年 2022年

1．発表者名 Yuriko Yamanouchi
2．発表標題 Ethnicity, Indigeneity, Colonial responsibility: Japanese researcher and Indigenous Australian-Japanese mixed descendant people
3．学会等名 GREENLAND-DENMARK 1721 + 300 = 2021（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Yuriko Yamanouchi
２．発表標題 Memories, relationships, and futures: food discourse among Japanese descendants in Broome, Western Australia
３．学会等名 Anthropology of Japan in Japan, Annual Meeting
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuriko Yamanouchi
２．発表標題 Food, Identity, and Local History: Food discourse among Japanese descendants in Western Australia
３．学会等名 Tenth International Conference on Food Studies（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 山内由理子
２．発表標題 オーストラリア北西部の町ブルームにおける日本人移民と食をめぐって-ディアスポラ的経験と場の生成
３．学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 山内由理子
２．発表標題 移民であり先住民であり－オーストラリア北西部の町ブルームと日本人移民
３．学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yuriko Yamanouchi
２．発表標題 'Who told you about your Japanese ancestors?': Ethnic identification of Japanese descendants in Broome, Western Australia
３．学会等名 The Australian Sociological Association (TASA) Conference 2017: Belonging in a Mobile World,（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 山内由理子
２．発表標題 食・記憶・エスニシティー日本人移民とオーストラリア先住民の混淆の町で
３．学会等名 第35回日本オセアニア学会研究大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計3件

１．著者名 山内由理子	４．発行年 2021年
２．出版社 東京外国語大学出版会	５．総ページ数 356
３．書名 萌える人類学者	

１．著者名 山内由理子	４．発行年 2020年
２．出版社 法律文化社	５．総ページ数 304
３．書名 オーストラリア多文化社会論―移民・難民・先住民族との共生を目指して	

１．著者名 Yuriko Yamanouchi	４．発行年 2017年
２．出版社 Ito Centre Editions	５．総ページ数 500
３．書名 Hapa Japan Vol. 1: History	

〔産業財産権〕

〔その他〕

2023: 「先住民であることとミックスであることーオセアニアの先住民を中心に」『民博通信Online』 2023, No,7、p.18-19、国立民族学博物館
https://www.minpaku.ac.jp/tsushin/seven_02/?pNo=18

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関